

# 微生物研究へ共同講座

## 北見・環境大善と北見工大

牛の尿を微生物に分解させたバイオ活性液を使った消臭剤や土壌改良剤を製造・販売する「環境大善」（北見、窪之内誠社長）は20日、北見工業大学と共同でバイオ活性液に関する研究講座を設置したと発表した。大学内に専用の研究室を設け、微生物の働きメカニズムなどを明らかにし、微生物の未知の機能を発見したり、製品の質向上を目指す。（樋口雄大）

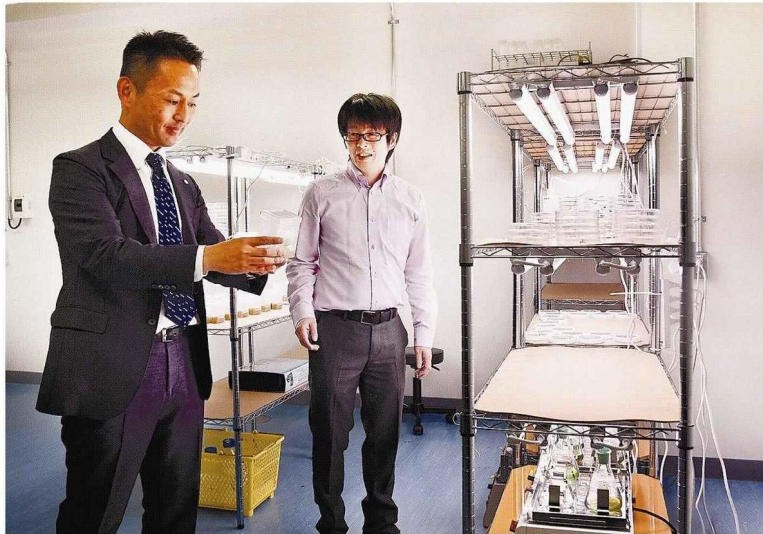
### 製品の質向上へ態勢強化

窪之内社長と同大の小西正朗教授（生物化学工学）が同日、学内で会見した。研究講座の設置は今年3月末～2024年度末とし、同社は研究費として総額1250万円を提供する。研究室にはすでに実験器具やバイオ活性液が持ち込まれ、微生物の機能について研究が進められている。

両者は17～19年度にかけて、環境大善の主力商売で、バイオ活性液を使った消臭剤「きえくる」の基礎研究を実施した。さらに研究を進めるには、無機物や化学分析など多方面の専門家が中長期的にわたって関わることや、資金を確保する必要があることから、態勢を強化した。

小西教授は「未知の能力も含めたバイオ活性液の可能性を、学術的に解明したい」と意欲を示した。窪之内社長は「社員も講

座に関わることで、スムーズな研究ができる」と話し、「この講座が、バイオ技術で地球環境に貢献したいという人材の受け皿になってほしい」と期待感を示した。



専用の研究室を見学する環境大善の窪之内誠社長（左）と北見工大の小西正朗教授